

平成 27 年度「市民による事業評価・提案会」評価・提案内容

評価・提案テーマ 子育て・教育

| 出された質問等 | 評価・課題 | 意見・提案等 |
|---|---|---|
| <p>○病児・病後児保育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病児・病後児保育の登録料 540 円を払わないと、預けることはできないのか。 ⇒適切な保育を実施するために、事前に子供のアレルギー等を把握しなければならないため、一度登録する必要がある。 ・27 年度は何人登録しているのか ⇒市内医院に委託をしている。利用者数は H26 で 362 人。個人情報等もあるため、お任せしている部分が多い。利用者数は把握している。 ・登録料が収入であれば、人数は把握できるはずだが。 ⇒把握はできる。細かい部分は資料が不足しているため、ご回答できないが、登録数は確認できる。 ・登録料はどこに入るのか ⇒医院に入っている。 ・登録料と委託料が医院に入るといふことか。 ⇒登録料の分は差し引く形をとっている。 <p>○放課後児童クラブ（学童保育）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童保育と放課後子ども教室の違いが判らない。学童は、放課後勉強したりしているイメージだが、違いは何か。 ⇒子ども教室は、体験学習などを中心に行っている。毎日ではない。学童保育は毎日行っている。対象者の違いとして、学童保育は共働き世帯などが対象ではないかと思う。 ・保育料があるものとないものという分けなのか。 ⇒子ども教室は、学童保育の子も参加できる。 | <p>○英語特区事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で英語ということにも違和感を感じるが、自分の体験や考えを表現する日本語（語彙・表現）の土台を作ることが必要である。 ・学区外通学のデメリット（車送迎による運動不足）を危惧している。 ・市内の他校でも開始したいとの説明だったが、附属小の児童を増やすための施策ではないのか。 ・自然体験も含め、都留ならでの取り組みは、外部から見ても魅力的。 <p>○のびのび興譲館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然塾に人気がない理由など、定員割れの原因を探る必要がある。 ・移住してきたときに、子ども向けのこのような事業があることを知って、とても好印象をうけた。 <p>○学生アシスタント・ティーチャー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「魅力ある都留市」の重要なコンテンツの一つとして大いに評価できる。学生にとっても大きな経験となるが、現場対応が課題である。 <p>○すこやか子育て医療費助成制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の現状で評価できる事業といえる。 <p>○ママさん学級/両親学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に対しての参加割合が不明だが、父親の参加が少なすぎ | <p>○英語特区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語特区事業について、素晴らしいと思う。小規模校で学区外からも受け入れをするといっていたが、生徒を増加させたいのか。場所的に通いづらいと思う。通学が困難で生徒が少ないと、せつかくの取組ももつたない。 ⇒指定校変更等が可能となったため、生徒数も少なくなったことに対し、学校の特色を出すために行っている。まだ取組も始まったばかりだが、平成 30 年度以降には全校へ広げていきたいとも考えている。現在は附属小の子どもを確保するために行っているが、今後は広げていくことを検討している。 ・移住を進めるうえでは非常に良い取組だと思う。しかしながら、附属小は場所的にかなり通いにくい。 ⇒そういったことも今後は考えていかなければならないと思う。 ・何のための施策なのか、周知徹底する。県外から附属小への入学希望者が出るくらいの意気込みが必要。そのためには、通学のための交通手段の確保による支援も重要。 ・姉妹都市のヘンダーソンビル市への留学や、ホストファミリーの受け入れなど、英語特区事業と連携できる部分は多いのではないかと。 <p>○のびのび興譲館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師に文大生を採用してはどうか。また、彼らの運営する塾を運営してはどうか。参加者、学生双方の学 |

| 出された質問等 | 評価・課題 | 意見・提案等 |
|---------|--|---|
| | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都会だと人口も多いので公園などに行けば同世代の子どもがいるが、人口や公園が少ない都留ではなかなか出会いもないのでいい制度だと思う。 <p>○ファミリー・サポート・センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績に対し、委託費の妥当性が疑問である。 ・人手不足の解消が課題。 <p>○地域子育て支援センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児不安は現代において重要課題なので評価できる。 <p>○病児・病後児保育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いきなり相談に行くのは敷居が高い。 ・委託費の支払いのみで丸投げの印象を受ける。委託料の妥当性も疑問である。 ・事業自体は役に立つものなので、一層の周知を図り支援を進めてほしい。 <p>○放課後児童クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公設民営という点は評価できる。 ・「放課後子ども総合プラン」に基づき、事業が進められていくということなので、一層の推進を期待する。 <p>○全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住者を増やす重要な施策にも関わらず、ルーティーンな印象が否めないことが残念。 | <p>びにつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季期間には、都市圏の子どもを誘致して、交流事業にすると互いに刺激になる。 ・「郷土愛の心を育む」という目的での活動はとてもいいと思うので、例えばクッキング塾で都留の名産品や水掛け菜を使った料理などは有効だと思う。 ・自然体験の内容で、都留の特産である水掛け菜の農業体験などは郷土愛につながるのではないかと。また、魅力的な活動をしているNPOの協力などを得て、里山にある都留の魅力を伝えてほしい。 <p>○学生アシスタント・ティーチャー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習と同様、学生の受け入れは学校の大きな負担となる。学校と学生をつなぐ役割を教職支援センターが行っているようだが、地域交流センターも協力する体制はできないか。 ・英語特区事業との連携を意識できないか。 <p>○ママさん学級/両親学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者からは好評であるとのことなので、参加しやすい工夫が必要である。 ・従来、身に着けていて当たり前だった「親業」を改めて教育しなければならない時代である。小学校の家庭科から、家族になることの意味を学ぶことが大切。 ・出産後、3ヵ月あたりの落ち着いた頃に、もう一度集まるような機会があれば、楽しいと思うし、輪も広がると思う。 ・感受性が高い妊娠時期なので、知識や情報と共に、心のケアや癒し(マタニティヨガ)を感じることができる時間があればいいのではないかと。 |

| 出された質問等 | 評価・課題 | 意見・提案等 |
|---------|-------|--|
| | | <p>○すこやか子育て医療費助成制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すこやか医療費助成は、利用者を減らしたいのか、増やしたいのか。減らしたいのであれば、手立てはいくつもあると思うが、どうなのか。 <p>⇒事業費の拡大によって、すこやかな育成が達成できるかという点、一致はしないものだと思う。なるべく医療費はかからずに済む方がいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知り合いでは、少し具合の悪い程度であれば、病院にはすぐかからない。ちょっと悪くなればすぐ病院にかかる方もいる。財政圧迫なのか、医療の充実なのか、なかなか判別できない。 <p>⇒山梨県の交付金があるが、入院が5歳児童、通院が就学未満児となっているため、(子育て支援の観点から) 充実にむけて検討し県へ要望していきたい。</p> <p>○ファミリー・サポート・センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターについて、提供会員は学生でもできるのか。 <p>⇒事前に講座を受けていただくことで、なることはできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生もバイトをしたいのだが、バイトが少ない。この提供会員ができれば、いいのではないかと思う。 <p>⇒事務局に話をして、今後広がりを持てるようにしていきたいと思う。講座を受けるだけでも勉強になると思う。大学で講座を開催できるようにしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年もこの提案はあった。アクションを起こすべき。 ・ファミリー・サポート・センターの取組は非常に大事な取組だと思う。子どもを気軽に預けられなかったり、いろんな理由があると思う。もう少し保育士を常駐させたり、ボランティアを活用するなど、何時でも受け入れができる体制づくりを進めてほしい。また、 |

| 出された質問等 | 評価・課題 | 意見・提案等 |
|---------|-------|---|
| | | <p>子育て支援センターの補助金がかなり高額だと思うが、こういった部分を見直して、他事業へお金を回すことなども検討してほしい。</p> <p>⇒市内4つの保育所で、国の補助金の額が決まっている中で補助額を算定している。また、ファミリー・サポート・センターの利用者数については、地域的な特色があると思う。親族が近くに住んでいるケースなど、利用せずとも解決できることもあるため、数字が少ない要因だと思う。しかしながら、核家族の方々もいるため、こうした支援を行っていきたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターの委託料が500万円ほどだが、これは国の基準があるのか。 <p>⇒毎年協議をしており、2名の保育士がおり、その人件費やその他経費となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターの保育士は、利用したい方と、預けたい方の橋渡しだけの事業をしているのか。 <p>⇒保育活動なども行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっている事業に対してかかる経費は検証する必要があると思う。丸投げで数字も把握できない事業は、考え直した方が良いと思う。 <p>⇒毎月報告等は受けている。今日資料がなかったために細かい数字が答えられなかった。人件費等積み上げで計算している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー・サポート・センターについて、市外の方でも預かることができるように、門戸を広く開けてほしいと思う。 <p>⇒受け入れはできる形となっているが、今のところ利用者がいない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を預かる事業なので、十分なスキルは必要だが、交流室での預かりでは学生をベビーシッターとして |

| 出された質問等 | 評価・課題 | 意見・提案等 |
|---------|-------|--|
| | | <p>採用することも可能ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託料の金額からしても、(委託先の)利用者増に向けた自己努力をしてほしい。 <p>○地域子育て支援センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から信頼関係を築き、不安や問題を感じたときは、すぐに相談できることが重要。拠点づくりなど、そのための信頼関係が構築できるプログラム作りを行ってほしい。 <p>○放課後児童クラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容を充実していく方向で、担当者が関わりを求めることを期待したい。 ・放課後こども教室との一体化により、スタッフと子どものバランスや、遊び環境、内容が単純化しないように配慮する必要がある。 <p>○放課後こども教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の高齢化には、学生アルバイトの育成で対応できないか。 <p>○全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育て支援」というと、親(母)に焦点をあてた「母が楽になるための施策」が多い。母が働かなければならない現状は全国的な問題であり、市の施策レベルでの問題ではないと思うが、「できるだけ親子が一緒に居られるように」を目指した「親だけでなく、親子に寄り添う」子育て支援ということも考えてほしい。 ・文大生をはじめとして、学生が貢献できる分野。アルバイト先が少ない都留市で、子育て・教育分野での学生登用は、学生と市の双方にとって利益になるは |

| 出された質問等 | 評価・課題 | 意見・提案等 |
|---------|-------|---|
| | | <p>ず。</p> <ul style="list-style-type: none">・安心して子育て出来るまちとして認識されるためには、育児休暇から復帰する際に職業訓練やお試し保育など、復帰への不安を払拭できる施策が有効ではないか。・ひとり親家庭の保育料軽減など、今後増えていくと予想されるものに対する補助などあれば、安心して子育てにつながるのではないか。 |